

インタビュー「子育て奮闘記～大変だけれど癒される毎日～」

今回は、香川大学イクメンの星、農学部 応用生物科学科、小川雅廣先生に子どもさんとの暮らしについてインタビューをさせていただきました。小川先生は、2004年から香川大学に赴任され、専門は生物資源利用学。広く食品の研究をされています。子どもさんのお話をされる時のやさしい笑顔がとても印象的でした。

香川大学農学部には7年前に赴任しました。ちょうど結婚した年で、神奈川の大学に勤める妻とは、3年間別居婚で過ごし、2週間に1度妻が会いに来てくれる生活を続けていました。妊娠を機に、子育てをどこでするか相談し、子育て環境と家族がいっしょに居られる時間を考慮し、香川で育てようと決めました。妻は高松で出産し育児休業の後、大学へ復帰し、週末以外は、父親である私と8か月の女の子との二人暮らしが始まりました。覚悟はしていたものの、夜泣きはする、熱は出す、肺炎にはなる等大変でした。毎日、保育園から研究室へ戻り、乳母車に子どもを寝かせ残った仕事を片付けていました。周りの先生方の理解と学生の協力もあり、多くの人に支えられて、なんとか乗り切ることができました。2歳からは、妻が岡山の大学に変わり、念願の親子3人暮らしになりました。妻は朝早く出勤するため、保育園の送迎は引き続き私の担当です。子育ては毎日時間がとの闘いで、仕事にどう優先順位をつけるかが求められます。周りの理解や協力に感謝しながら、なんとか両立を図ってきました。



農学部 応用生物科学科
小川 雅廣教授

自分の為だけでなく、大学の構成員全員が 安心して子育てできる環境整備が必要



長女はようやく4歳になりました。9月にはもう一人生まれる予定です。子どもとの暮らしの中で、私自身、子どもに癒されることも多く、妻との関係性も変わりました。立ち合い出産で子どもが生まれてくるのを見た瞬間、「自分の赤ちゃんだ」という感じがして、父親として責任を果たして行きたいと心から思いました。

自分の為だけでなく、大学の構成員全員が安心して子育てできる環境整備が必要です。特に、体調を崩しやすい乳幼児や児童を時間に関係なく

安心して預けられる保育園、病児保育室、学童保育施設が学内または職場のそばにできることを願っております。機会がありましたら、これらの問題について皆さんといっしょに考えていきたいと思っています。

【主な研究】

低温細菌由来の酵素のスクリーニングと酵素の食品への応用
食品タンパク質の応用と未利用タンパク質資源の有効利用
オリーブ葉ポリフェノールの高品質化に関する研究